

ぴっぷ議会だより



大きなニジマス
を釣り上げたよ!

- 2 審議結果「第3回定例会」
- 4 一般質問
- 7 令和元年度各会計決算審議
- 10 委員会報告

9月23日 ニジマス釣り体験

子ども体験教室「ニジマス釣り体験」に参加した子どもたちは魚が竿を引くたびに大きな歓声を上げていました。

9月7日～10日 第3回定例会



9月7日～10日に開かれた令和2年第3回定例会では町の課題等に対し、3議員が一般質問をしました。また、令和元年度比布町歳入歳出決算認定をはじめ、議案12件は審議の結果、すべて原案のとおり可決しました。なお、一般質問は4～6ページに掲載しています。

報告

◆専決した事件

公用車の接触事故による賠償報告（129,862円・損害保険適用）

◆地方公共団体の財政の健全化に

関する法律に基づく報告

令和元年度決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率を議会に報告し、財政の健全性を示すものです。

実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率の4つの指標がありますが、本町の財政はいずれも基準値内で「健全である」との報告がありました。

認定

◆令和元年度比布町歳入歳出決算認定

佐藤康則委員長ほか6人で構成する決算特別委員会に付託された決算審議の結果、認定されました。

人事

◆教育委員会委員の任命

任期満了に伴う教育委員会委員の任命について、引き続き、佐藤五香氏を任命することで同意しました。

◆固定資産評価審査委員会委員の選任

任期満了に伴う固定資産評価審査委員会委員の選任について、引き続き、大野秀吉氏を選任することで同意しました。

変更

◆北海道市町村総合事務組合規約の変更

◆北海道市町村職員退職手当組合規約の変更

◆北海道町村議会議員公務災害補償等組合規約の変更

各組合を構成する団体の一部が解散したため、規約を変更するものです。

【原案可決】

令和2年度各会計補正予算 (第3回定例会)
一般会計（第6号） 1,180万9千円の増 (総額44億5,485万1千円) ■戸籍附票システム等整備事業、商工業振興事業、森林環境譲与税活用事業の増ほか
介護保険特別会計（第2号） 3,419万円の増(総額6億1,434万3千円) ■令和元年度決算確定に伴う繰越金の増ほか
観光事業特別会計（第1号） 0円(総額1億6,766万2千円) ■財源の変更に伴う振替のため、予算の増減はありません。

聞かせてください！

議会傍聴の感想



65歳までの長い会社勤めを終え、自分の時間ができるようになったら議会傍聴に一度は行ってみたいと思い、友人を誘って行くことにしました。

なぜ決算特別委員会を傍聴したのかは「身近なことに税金がどう使われているのかがわかる」と思ったからです。暑い日でしたが、皆さんが一生懸命話合っている様子を見て、活発な議論が交わされるのが議会なんだと改めて思いました。自分のプラスになりました。

ただ、一人ではなかなか傍聴に行きづらいので、団体や組織の方が誘い合ったり、防災無線でのお知らせもあります。もっとPRや啓もうが必要だと思います。また、マイクを使い話す人が傍聴者にも聞こえやすく話してほしいと思いました。
(60代・男性)

2回目の議会傍聴でした。前回は一般質問を聞きましたが、今回は友人に誘われ決算特別委員会の傍聴となりました。

議員の鋭い質問に対する的確な答弁で、またさらにそれを追及しているところが大変良かったと思います。勉強させていただきました。
(60代・男性)

条例

◆比布町過疎地域自立促進市町村計画の変更
過疎対策事業債の申請に伴い、過疎計画の変更を行うものです。
【原案可決】

◆比布町長等の損害賠償責任の一部の免責に関する条例の制定
地方自治法の一部改正により、

町長等の職務行為について善意でかつ重大な過失がない場合に、条例において賠償の限度額を定めて損害賠償責任の一部を免責することができるとされたため、本条例を制定するものです。
【原案可決】

◆比布町監査委員条例の一部を改正する条例
地方自治法の改正に伴う条例改正です。
【原案可決】

補正予算

◆一般会計（第6号）

◆介護保険特別会計（第2号）

◆観光事業特別会計（第1号）

補正額と総額、主な内容は上の表のとおりです。
【原案可決】



決定

◆損害賠償額の決定

環境整備作業中の事故による賠償額の決定（107,571円・損害保険適用）
【原案可決】

意見書を提出

第3回定例会において、次のとおり意見書を採択し、それぞれ関係機関に提出しました。

◆新型コロナウイルス感染症の影響に伴う地方財政の急激な悪化に対し地方税財源の確保を求める意見書

【提出先】衆参両院議長、内閣総理大臣、財務大臣、総務大臣、厚生労働大臣、経済産業大臣、内閣官房長官、経済再生担当大臣、まち・ひと・しごと創生担当大臣

◆国土強靱化に資する道路の整備等に関する意見書

【提出先】衆参両院議長、内閣総理大臣、財務大臣、総務大臣、国土交通大臣、国土強靱化担当大臣

◆軽油引取税の課税免除特例措置の継続を求める意見書

【提出先】衆参両院議長、内閣総理大臣、財務大臣、総務大臣、農林水産大臣、経済産業大臣、国土交通大臣



道路への 排雪禁止条例の制定を

村中町長

今後も適切な道路管理と 必要なサービスを提供していく



植西 浩一 議員

□質問・植西議員

わが町の除雪は、好評価で多くの方が満足されているようです。一方で、敷地内の雪を道路に出してしまうケースに歯止めがかかりません。

その理由の多くは道路除雪の雪を道路に戻したというようなことで、まじめな方が不利益を被らないために、道路に雪を出す行為を条例で制限してはいいかかと思えます。

また、道路への排雪を禁止すると、その際のケアも必要になると思われます。その対応を含めて、考えをお聞かせください。

■答弁・村中町長

本町の除雪事業は、できる限りの対応をしています。町民に多大なご協力をいただいていると認識しています。

除雪後に車道に雪を出すと路面が大変危険な状態で圧雪されることとなりますので、町広報紙で協力依頼を行っているところです。

また、降雪の状況に応じて年3、4回の排雪作業を行い、住宅が密集する地区の道路幅員確保にも努めています。危険な箇所があれば、その都度、除排雪等の対応をしていますので、大きなトラブル等は無く、ほぼ順調に行っていること

から、現段階で条例の制定は必要ないと考えます。

「道路への排雪を禁止するとその際のケアも必要になるのでは」ということですが、これまでも除雪支援が必要な高齢者や身体に障がい等のある方には、必要な支援を行っており、これからも支援が必要な方には、門口除雪サービスなど必要な除雪サービスを提供していきます。

今後も交通安全の確保、高齢者や身体の弱い方等への対応を含め、総務企画課、保健福祉課、建設課、社会福祉協議会などと連携し、町民への啓発を行うとともに、快適な生活環境の維持のため、冬期間における適切な道路管理とサービス提供に努めます。

□質問・植西議員

条例を制定することで、守らなければいけないという基準のレベルが上がります。道路に雪出しをしてはいけないということが、マナーから法令で禁止された行為として意識され、さらに一段階高い認識を持たれることになると思います。

今後、道路に排雪をしなくても済むような設備設置に補助金を出すことは難しいでしょうか。また、民間サービスについて、

行政として情報提供をすることは可能でしょうか。

■答弁・村中町長

条例を制定する以前に快適に生活できるような仕組みを作れば、少しは解決できるかと思えます。以前には融雪槽やロードヒーティングの設置補助制度がありました。何か新しい技術等あれば、再導入等についての検討も考えられると思います。

また、個人宅の除雪を請け負っていただけの民間事業者等を紹介することは可能だと考えます。行政が行う事業を補完していただけるような新たな組織があれば、紹介もしやすくなると思います。





コロナ禍の教育は「一人ひとりの教育の保障を」

北川教育長

感染症対策を講じながら 教育活動の継続と心のケアに努めたい



遠藤 ハル子 議員

□質問・遠藤議員

新型コロナウイルスと長期に共存する時代、いわゆる「ウィズコロナ」のもとで、学校の改革が多くの点で求められています。

学校再開後の「分散登校」を通しての体験は、一時的に十数人の授業となり「子ども一人ひとりの表情がよくわかる、コミュニケーションもとれる」「一人ひとりの学習のつまづきを丁寧にみられる」など効果が明らかとなりました。

少人数学級が手厚い教育、柔軟な教育にいかにも有効かが、コロナ禍での全国の経験となり、感染拡大防止の点でも、現在の「40人学級」は無理があることがわかりました。

10万人の教員増とそれを活用して少人数学級を実現するためにかかる予算は数千億円です。

教育長に伺います。コロナ禍にあつて、一人ひとりの学習を保障する教育がどう行われ、これからどうしていくのか。また、比布町では教員増の声を国へあげる考えはありますか。

■答弁・北川教育長

新型コロナウイルス感染症において本町では6月から学校を再開し、通常登校をしています。学校では、児童生徒が円滑に学校生活に適應できるように、文部科学省が

示した「新型コロナウイルス感染症に対応した持続的な学校運営のためのガイドライン」や「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」学校の新しい生活様式」に基づき、感染症対策を講じながら、授業や部活動、各種行事等の教育活動を継続し、児童生徒一人ひとりの健全やかな学びの保障と心のケアにも努めています。

今、新型コロナウイルス感染症防止対策の抜本的な改善策の一つとして、少人数学級の実現に期待が高まっています。

国はこれまで、複数にわたり「教職員定数改善計画」を策定し、段階的に学級編制基準の引き下げを進めてきており、現在、1学級の人数は上限40人となっています。なお、小学1年生は35人で、小学2年生も教員加配の予算措置が行われ、実質35人となっています。



現在、中学1年生37人が在籍する学級では、学習指導において、多人数のための工夫や努力をしていますし、感染症対策においても、教科や学習内容によって学級を2グループに分けて授業をしたり、広いスペースや武道場に移って授業をしたりなど、より柔軟な対応に迫られている現状があります。

この少人数学級の実現を含めた学校教育環境整備を図ることについても、所属団体等を通じて国へ要望していきます。

あわせて、学級担任や養護教諭を中心としたきめ細かな健康観察等から児童生徒の状況を的確に把握し、健康相談の実施やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等による支援を行うなど、心のケアにも適切に対応していきます。

□質問・遠藤議員

教員増と教室確保を同時に要望する考えですか。

■答弁・北川教育長

その2点については教育環境整備という形で考えています。教室については、中学1年生を何とか工夫して2学級にするのは可能だと考えます。



空き地・空き家をとりにまく 状況と取り組みは

村中町長

アンケート結果を生かすとともに 管理放棄空家の除却は慎重に検討したい



安藤 裕子 議員

□質問・安藤議員

人口減少や相続問題などを背景に、空き地・空き家の増加が全国的にも問題となっていますが、比布町も空き地・空き家が放置されないよう適正管理、利活用の対策が急務と考えます。3点について伺います。

1点目は、所有者の高齢化・所有地の利用意欲の減退・活用ノウハウ不足を背景に土地・家屋の放置が増加の傾向にある課題をどのように考えていますか。

2点目は、空き地・空き家実態調査や所有者の特定等調査、今後の家屋や住居等意向アンケートが行われましたが、その結果はどのようなものとなったか伺います。

3点目は、市街地に20年以上放置された空き家が原因となり、住環境の悪化につながり、近隣住民に深刻な被害をもたらす可能性が年々強まっています。平成26年に「空家対策特別措置法」が成立し、社会問題となっている空き家に対して「特定空家」に指定することができるとありますが、この空き家に対して、行政代執行の考えはありますか。

■答弁・村中町長

本町では、平成28年度に空き家等対策計画を策定し、民間業者による空き地・空き家調査を実施しました。本年度は地域おこし協力隊員による調査を開始し、その調査結果も踏まえて答弁します。

1点目については、所有者不明の空き地・空き家が増加しており、行政代執行も可能としたこの法律ですべてを解決することは難しく、国では相続登記の義務化や所有権の放棄についても検討されているようですので、経過を注視したいと思っています。

2点目は、調査を終えた状況では空き地76か所、空き家73戸を確認しています。また、アンケート結果については、持ち家の所有者は約76%と多く、その内、約73%が築年数20年以上を経過しており、持ち家に住み続けると回答された方が約67%でした。生活環境の保全や移住・定住の促進に向け、このアンケートと実態調査の結果を次年度に向けて生かしていきたいと思っています。

3点目の空き家については、行政代執行により解体をしたとしても、管理放棄空き地になる可能性もあり、どのような方法で除却す

ることが最善か弁護士に相談し、慎重に検討していきますので、ご理解をお願いいたします。

□質問・安藤議員

アンケートの回答では、リフォーム補助を望む声やバリアフリー改修に対する支援など、町民の方から貴重な意見が多く寄せられていますので、まちづくりの参考にさせていただきたいと思えます。

また、3点目に指摘したような放置された家屋や土地が今後増加することにより、災害時における周辺への被害や比布町のイメージダウン等にならないよう、そして、現在の持ち家に住み続けていけるよう、更なる支援や情報提供の検討をお願いします。

■答弁・村中町長

リフォームやバリアフリー補助については、これからの参考にさせていきたいと思えます。

また、空き家による災害時等の被害については、住民の方の財産と生命を守らなければいけませんので、被害を防ぐような対応をとっていききたいと思います。



令和元年度各会計決算を認定

令和元年度各会計決算は、議長及び議選監査・澁谷興二議員を除く議員7人で構成する決算特別委員会（委員長佐藤康則・副議長）を設置し、9月7日と9日の2日間にわたり、審議を行いました。

定例会最終日の9月10日に、佐藤委員長から「委員会として令和元年度会計決算を認定すべきもの」との審査結果報告がありました。

区分

歳入合計

歳出合計

差引

区分	歳入合計	歳出合計	差引
一般会計	4,075,339,689円	3,910,080,328円	165,259,361円
国民健康保険特別会計	530,522,916円	506,851,083円	23,671,833円
後期高齢者医療特別会計	64,859,817円	64,859,096円	721円
介護保険特別会計	610,020,808円	576,472,933円	33,547,875円
観光事業特別会計	138,994,324円	122,876,365円	16,117,959円
簡易水道事業特別会計	206,728,205円	202,928,166円	3,800,039円
公共下水道事業特別会計	66,929,858円	65,034,891円	1,894,967円
合計	5,693,395,617円	5,449,102,862円	244,292,755円

▼一般会計【歳入】

使用料及び手数料

【大熊委員】グリーンパークの使用料について、今年もキャンプ場は多くの利用者があり、今後も見込まれることから利用料の見直しを図ってみてはどうか。

【産業振興課長】昨年度に続き本年度も利用者は増えており、コロナの影響もあるとも考えています。他のキャンプ場の状況も調査をしています。現時点での検討は行っていないことから、早期に値上げをする考えはありません。

【遠藤委員】公営住宅の使用料について、減免制度もある中で未納となった方々の収入状況について調査や分析を行っているのか。

【建設課長】収入状況のみで未納になるとも限らないことから特別に調査は行っていませんが、納税相談などで話を伺う中で減免ができることも伝えながら納入をお願いしています。

財産収入

【安藤委員】旧蘭留小学校の貸付収入については、今後はどのような運用で収入確保を考えているのか。

【総務企画課長】昨年5月以降は貸

付しておらず、老朽化による修繕が必要な箇所もありますが、今後の光通信網の拡大による需要も見据え、取り壊しも含めた中で利用の検討を進めていきます。

寄附金

【谷口委員】まちづくり応援寄附金は有効な財源と思うが、過度な競争によって返礼品が問題となった面もある。今後返礼品の種類を増やしていく方向になるのか。

【総務企画課長】近隣町と比較するとまだまだ足りませんが、コロナ禍における要望も考慮しながら、本町でしっかりと安全に作られているものを送りたいと考えています。

【植西委員】まちづくり応援寄附金は以前よりも増えてはいるが、町の魅力を発信することで収入に繋がると返礼品の内容を含めてもっと強化すべきではないか。

【総務企画課長】返礼品の金額については概ね適正な価格の物となっていると考えています。貴重な財源とは思っていますが、永続的に町を運営していくための財源とも考えていけませんので、近隣の状況も調べながら多くの寄付を得られるよう進めていきます。

【町長】この制度についてはさまざまな議論がある中、寄付額の多い、少ないが町の魅力とも捉えられがちな面もありますが、比布町に関心を持ってもらう機会でもあると思っております。町の貴重な財源としても今後も利用してまいります。

▼一般会計【歳出】 総務費

【大熊委員】ふるさと応援寄附金事業について、今後、掲載するインターネットのポータルサイトを増やしていく考えはあるのか。

【総務企画課長】現在3か所のポータルサイトに掲載をしていますが、他町でもサイトを増やすことによる増収は見えないことから、あまり増やさずに集中的に行う方がよいと判断しています。

【安藤委員】防災ガイドマップについては良いものができたと思うが、コロナ禍における感染症対策も必要ではないか。また、役場庁舎に国が求める72時間分の燃料を備蓄していないと新聞掲載されたが、災害時に十分な対応ができるのか。

【総務企画課長】避難所におけるコロナ等の感染症対策として予防マニュアルを作成し、仕切り用段ボール等も購入しました。また、役場

庁舎の燃料備蓄は消防法に基づく備蓄量では8時間程度となることから、町内の燃料業者との協定によって優先供給を受けることで72時間以上の対応ができるようにしています。

【植西委員】防災諸費においてドローンを活用して空中から土砂災害などの危険箇所を事前に確認する考えは。

【総務企画課長】観光事業でドローンを購入する予定であり、職員も操縦講習を受けましたので、有効に活用したいと考えています。

民生費

【遠藤委員】緊急通報システムについては73台設置されているとのことだが、必要な方はまだいるのではないか。また、性能の良い新しい機種に更新する予定はあるのか。

【保健福祉課長】年度当初では81台必要と確認しており、今年度10台導入して83台となる予定です。機器の更新に際しては、目的や費用面を含めて検討してまいります。

農業費

【谷口委員】いちご振興事業について初年度の手応えは。また、PR

としても引き続き冬いちごを努力してほしい。

【産業振興課長】昨年9月に定植して12月下旬に収穫を始め、収穫量は当初目標の10分の1程度となりましたが、反省点を踏まえて今年の栽培を進めています。

【今井委員】いちご振興事業については国のパワーアップ事業を活用したものだが、目標が達成できない場合のペナルティ等はなかったのか。

【産業振興課長】補助金の申請に際しては目標を決め、毎年その成果を報告しています。事業者と町は実証実験として10年間実施することと話をしていますが、ペナルティについては定めていません。

【今井委員】いちご振興を考えたときに本当に冬いちごで良かったのか、町としてどう考えているのか。

【産業振興課長】冬いちごは農閑期における所得向上に向けた実証栽培ということであり、比布いちご全体の振興を図る目的の一つの手段として行っているものです。

【町長】プロジェクトチーム等で検討の中で、冬いちごを作ることで通年いちごが採れるのではということ、現在は1棟ですが実証実験を始めています。良い結果となるかはわかりませんが、所得の向

上といちご栽培が少しでも広がるよう今後も努力を進めていく中での一環としての冬いちごとなっております。

【安藤委員】農産加工室について、今後商品開発を望めるのか。また、専門講師に依頼するなど今後の運営についてどう考えているのか。

【産業振興課長】利用人数は年々減少していますが、加工量は大きく変わっていません。新規の利用者を増やすイベント等を開催し、その中から新しい商品の開発につながればと考えています。

消防費

【遠藤委員】ドクターヘリの出勤要請回数は。また、訓練ではどのような内容を主に行っているのか。

【消防署長】要請回数は11件で実際に出動となったのは8件となっております。また、毎日さまざまな現場を想定した救急・救助訓練を室内外で行っています。

【植西委員】消防団員の防災士資格の必要性和資格取得に対する補助の考えは。また、救助活動にドローンの活用の考えはあるか。

【消防署長】団員が資格を取るメリットはあると思いますが、一定

程度の知識を取得する必要はあるとも考えます。ドローンについては捜索活動などに有効だと期待しており、消防職員も操作研修に参加しています。

【安藤委員】救急出動に際しコロナ感染症対策としてどのような対応を行っているのか。

【消防署長】コロナの症例があるようなら防護服等の感染症対策をした装備で出動しています。

教育費

【大熊委員】君の夢プロジェクト推進事業は毎回同じ様な内容ではなく、子どもたちの希望に沿った事業となっているのか。また、大会見学などはどう考えているか。

【生涯学習課長】君の夢プロジェクト事業の部活動支援については、一流選手からの指導が主で、先生や生徒の意見を聞いた中で行っており、有意義なものと考えています。本年度はコロナウイルス感染症の影響で大会等の開催がなく、特に中学3年生については中止となったものが多いことから、夢を与えられるものを実施していきたいと考えています。

【植西委員】児童生徒がいじめや犯

罪に巻き込まれないように、町内に限らず旭川市等との広域での人権擁護委員や警察との連携についても必要ではないか。また、スクールカウンセラーとの連携も必要と考えるがどうか。

【生涯学習課長】予算はありませんが、人権擁護委員や警察の方もそれぞれ活動しており、問題があれば教育委員会や学校に連絡があるほか、町内の青少年健全育成に係る連絡会議にも警察の方が入っていますので連携は取れていると考えます。なお、旭川広域で警察を含めた巡回指導なども行っています。スクールカウンセラーについては時間に制限がありますので、スクールソーシャルワーカーが主となり活動しています。

▼観光事業特別会計

【今井委員】スキー場の再整備について自分は進んでいないと認識しているが、周辺環境を含めた再整備の必要性が次年度以降あるのか。

【産業振興課長】現在、計画に基づく整備はしていませんが、まちづくり計画には今後の良好村ゾーン全体の検討として掲載しています。スキー場の運営方法についてはこの3年間で議論する考えです。

【今井委員】今後、委託や売却等の

運営方法も考えるのであれば、良好村エリア全体で会計を一元化して収支のバランスを考え明確にすることが必要で、町民サービスに固執しない方が良いのではないか。

【産業振興課長】会計の一元化については運営方法によって協議するものと考えています。運営状況を考えますと町外利用者の獲得も当然のことですが、公営のスキー場であることから町民に対するサービスは継続する考えです。

【町長】観光については稼ぐだけではなく町を知ってもらう場所でもあると考えており、安易に民間譲渡を行う考えはありませんが、赤字がいくらでも良いのかということとは議論の必要があると思います。今後、比布のまちづくりを共に協力して進めていただけの方がいいば、いつまでも直営でとの考えはありません。

▼財産に関する調査

【今井委員】役場庁舎について自治体として大切な建物であり整備基金もあるが、整備計画はあるのか。

【町長】基本構想のみで具体的な計画はありません。建設が必要な時期ではありますが、他の施設機能を集約する考えもあり、現在の基金では相当な不足があることから、

十分な財政の検討はもとより、町民の皆さんとの話し合いを重視する中で進めたいと思っています。

▼総括質疑

【遠藤委員】予算総額に対し適材適所への予算執行により、決算では相当の繰越額が確保され、人口もなかなか増減となっている等、やる気が感じられる行政運営だったと思う。移住定住対策として住生活アンケートでもあったリフォーム・リノベーション助成を強く進める必要があるのではと考える。快適な暮らしができるこの比布町のPRを町長をはじめ職員、議員、町民が一体となって広げてもらいたい。

【町長】本町は過去より「最小の経費で最大の効果」を得られる予算の執行に努めており、特に今回のコロナ対策のような緊急時に財政出動すべきものと考えています。人口減少対策については経済圏である旭川市等と連携することも必要と考えており、また、移住定住対策については「住んで良かった」が私の考えるところですので移住された方の幸せな生活を後押しすることが一番大切だと思っています。リフォーム補助については今ある制度を整理統合する中で考えていきます。

委員会のactivities



総務常任委員会
8月26日開催

【税務住民課】

《報告事項》

- 令和2年度町税等の課税状況（当初）・7月末の収納状況
- 上川広域滞納整理機構の収納状況
- 合併処理浄化槽設置及び維持管理状況等
- 公衆浴場利用状況等
- 火葬場使用状況等

《協議事項》

- 令和2年度一般会計補正予算案
戸籍附票システム等整備費補助金704万円
- 比布町合葬式施設使用概要案

【保健福祉課】

《協議事項》

- 第3回議会定例会提出議案
- ◇ 令和2年度一般会計補正予算
民生費8万9千円は、人工関節、

人工透析の還付金増

- ◇ 令和2年度介護保険特別会計
介護保険事業準備基金積立金2、213万4千円を支払基金へ返還

《その他》

- 上川中部基幹相談支援センター及び上川中部こども通園センターに係る一部事務組合化に向けた協議
- くるみ保育園の移転経過報告

【生涯学習課】

《協議事項》

- 令和2年度一般会計補正予算案
ヒルクライムレース大会の参加者を500人と見込み、参加賞と保険料他81万8千円の増額

《報告事項》

- 令和元年度比布町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況の点検・評価
- 北海道教育委員会教育長訪問
7月21日に道教育長、上川教育局長他8名が比布中学校で小中一貫教育等を視察されました。
- 学校運営協議会
7月9日に開催。コロナ禍でソーシャルディスタンスを取りながらの保育、小中学校の授業の状況について報告されました。

- 中学校修学旅行
新型コロナウイルスの影響を鑑



通年寺子屋「ほくれい塾」

み、延期となっていた修学旅行が、中止となりました。

- 運動と食による脳の活性化事業
における今後の展開について
- 小学生学習支援事業「ぶっくん寺子屋」
8月11、12日に開催し、全児童数の30%が参加。自主学習に取り組みました。

- 通年寺子屋「ほくれい塾」
9月28日から毎週月曜日に実施
- 図書館、小・中学校の蔵書点検

- 令和2年度比布町文化賞
- 第1回比布町ヒルクライムレース大会の参加者の申し込み状況と開催計画
- 地方創生臨時交付金（1次・2次）11事業の進捗状況

【総務企画課】

《報告事項》

- 第3回議会定例会提出議案
報告2件、認定1件、議案11件
- 令和2年度普通交付税の算定誤りについて
今回の算定で過大交付された額6,778万円は、令和3年度交付税検査で額が確定し、4年度の普通交付税で減額されるため、それまでの間、財政調整基金に積み立てられます。

- 令和2年度人事院勧告
- その他

- ◇ 令和3年度職員採用試験
- ◇ 特別定額給付金は1名の辞退があり、申請率は99.9%でした。

- ◇ 比布町住生活基本計画策定に係るアンケート結果は回答数778世帯で回答率は45.8%でした。
- ◇ 8月1日より地域おこし協力隊1名を任命

- ◇ 比布町×ピップ株式会社「PIP相互応援大使活動1周年記念イベント」
- ◇ 道北バスからの支援要請について

《協議事項》

- 第3回議会定例会提出議案
- ◇ 専決処分、地方公共団体の財政健全化に関する報告、令和元年度比布町各会計歳入歳出決算認定
- ◇ 北海道市町村総合事務組合規約、

市町村職員退職手当組合格約、町村議会議員公務災害補償等組合格約の変更

◇比布町過疎地域自立促進市町村計画の変更

◇比布町長等の損害賠償責任の一部の免責に関する条例の制定

◇比布町監査委員条例の一部改正

◇令和2年度一般会計補正予算案
緊急浚渫推進事業370万円が確定されたことによる地方債補正等

総務常任委員会

9月7日開催

【総務企画課】

■委員会付託議案の審査

◇比布町長等の損害賠償責任の一部の免責に関する条例の制定について



稲刈り風景

産業建設常任委員会

8月25日開催

【産業振興課】

▽農林部門

《報告事項》

■農作物の作付状況

■経営所得安定対策

■令和元年度いちご冬季栽培実証実績

■新型コロナナウイルス関連事業

(国)の申請状況

■クマ出没状況

《協議事項》

■比布町民有林等整備推進事業補助金交付要綱の制定

■第3回議会定例会提出議案

◇令和2年度一般会計補正予算案

▽商工・観光部門

《報告事項》

■令和2年度各施設の利用状況

■各イベント等の実施状況

■事業継続支援給付金交付実績

◇申請件数 27件

(法人15件・個人12件)

◇交付額 1,857万9,500円

■緊急特別資金利子等補給事業

■地方創生対応臨時交付金を活用した事業の実施状況

(1)「がんばろう!ぴっぴ応援特別

商品券」給付事業

◇商品券利用率44・3%、食事券利用率23・3%、スタンラリー応募件数239件、当選件数90件(8月17日現在)

(2)ぴっぴ良佳村エリア特別利用券給付事業

◇利用率8・23%(7月末現在)

(3)テイクアウトサービス事業支援金交付事業

◇交付件数6件、交付額21万円(7月末現在)

(4)おうちで七夕天国事業

◇打ち上げ花火 8月8日実施

◇手持ち花火セット配布 引換数283人、引換率78・6%(8月13日現在)

(5)事業継続支援給付金交付事業

(6)コロナに負けない事業所交付金交付事業



おうちで七夕天国事業・打ち上げ花火

(7)「新ぴっぴスタイル」イベント補助事業

(8)商工業振興補助事業(新型コロナナウイルス感染症対策型)

《協議事項》

■第3回議会定例会提出議案

◇令和2年度一般会計補正予算案

◇令和2年度観光事業特別会計補正予算案

【建設課】

《報告事項》

■建設工事の発注及び進捗状況

■道路環境整備事業等の実施状況

《協議事項》

■住生活基本計画等について

【農業委員会】

《報告事項》

■農地法及び基盤強化法による農用地集積状況

産業建設常任委員会

9月10日開催

【建設課】

《報告事項》

■損害賠償額の決定について

議会のうごき

8月

- 19日 家畜慰霊祭 (中央ふれあい広場、議長)
- 25日 産業建設常任委員会 (役場、委員・議長)
- 26日 総務常任委員会 (役場、委員・議長)

9月

- 2日 議会運営委員会 (役場、委員・議長)
- 7日 第3回議会定例会 ~ 10日 (役場、全議員)
- 決算特別委員会 ~ 9日 (役場、全委員)
- 総務常任委員会 (役場、委員・議長)
- 8日 戦没者追悼式 (改善センター、全議員)
- 9日 議会広報特別委員会 (役場、委員)
- 10日 総務常任委員会 (役場、委員・議長)
- 議会運営委員会 (役場、委員・議長)
- 議会改革特別委員会 (役場、委員・議長)

みなさんも

議会を傍聴しませんか



次回の議会定例会は12月上旬に開会します。くわしい日程は、無線放送等でお知らせしますので、お気軽にお越しください。

10月

- 9日 上川管内町村議会議員研修会 (鷹栖町、全議員)
- 14日 議会広報特別委員会 (役場、委員)
- 19日 総務常任委員会 (役場、委員・議長)
- 23日 全員協議会 (役場、全議員)
- 議会運営委員会 (役場、委員・議長)
- 第5回議会臨時会 (役場、全議員)
- 議会広報特別委員会 (役場、正副委員長)
- 29日 上川管内町村議会議長研修会 ~ 30日 (音威子府村、議長)

編集後記



実り多い収穫の秋からウインタースポーツの冬へと季節は移り変わろうとしています。今年は新型コロナウイルス感染症により、世界的に大きな影響を受ける年になるとは、誰も予想できなかったことでしょう。

人生には三つの坂があると言われてます。一つは上り坂、二つは下り坂、そして三つ目は『まさか』。まさかこんなことになるとは。想定外を想定するのは本当に難しいです。

人との接触を避けるためのテレワークやオンライン会議も増加し、話題にもなりました。

わが町においても緊急事態宣言の発令等により、人の動きが止まり、経済活動も縮小傾向となりましたが、町の様々な施策や移動制限の解除で回復へ向かう一助となっているのではないのでしょうか。普段の日常生活がどれだけ幸せなことか改めて実感しているところです。

また、三密を避けながらの各イベントや行事も行われるようになり、町民の笑顔を見られるようになってきました。早くマスク無しでの暮らしに戻ることを願っております。

(谷口 雅浩)

議会広報特別委員会

- 委員長 安藤 裕子
- 副委員長 谷口 雅浩
- 委員 遠藤 ハル子
- 佐藤 康 則
- 大熊 勝 幸